



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

新任挨拶



総合内科 部長 濱口 杉大

平成28年10月1日より附属病院に「総合内科」が新設されました。総合内科とは高齢化社会を反映して1人で1つ以上の病気を持つ人が増えている中で、複数の病気のバランスをうまく考えながら総合的に診療することを得意とする専門科です。

高度先進医療の役割を担う大学病院では、患者様の問題点を整理して適切な専門診療科への橋渡しをすることも仕事ですが、特に不明熱などの他でなかなか診断がつかない症状や病気に対して専門的に挑戦する役割も担っております。また診療科をまたぐような分野である感染症診療も得意としております。

我々が最も注目しているのは患者様からの話、つまり病歴聴取になります。次にそれをヒントに行う診察、つまり身体診察です。最先端技術を駆使した医療機器がそろった大学病院においても、検査では得られない患者様からの直接の情報は各専門科でも重視しております。我々は特にそこから「臨床推論」という技術を用いて原因を解明していく専門性をもっております。このような基本的技術は将来の日本の医療を担う若手医師や医学生にとっても大切なものであるため、総合内科では医学教育、臨床研修教育にも力を入れております。

素晴らしい専門医療を行う福島県立医科大学附属病院に総合内科が加わることにより、より隙間のない高度で緻密な医療を皆様に提供できると考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



核医学科 部長 織内 昇

平成28年11月1日に新設された核医学科の部長を拝命しました。

核医学科は主としてRI内用療法を担当します。RI内用療法は、放射性核種を付けた薬剤を患者さんに内服あるいは注射して病巣に集積させ、薬剤から放出される放射線によって治療を行うもので、副作用の少ない標的治療です。

外来で行う治療とRI病棟に入院して行う治療があります。

| 疾患名 | 薬品 |
|---------------------|------------------|
| 外来で行う治療 | |
| パセドウ病、甲状腺癌(アブレーション) | ヨウ化ナトリウム (I-131) |
| 低悪性度B細胞性リンパ腫 | ゼヴァリン® (Y-90) |
| 前立腺癌骨転移 | ゾーフィゴ® (Ra-223) |
| 固形癌骨転移の疼痛緩和 | メタストロン® (Sr-89) |
| 入院で行う治療 | |
| 甲状腺癌(甲状腺全摘後) | ヨウ化ナトリウム (I-131) |

入院診療は、甲状腺がんのヨード131による治療が中心で、入院期間は約1週間です。その他に悪性褐色細胞腫というがんの治療なども将来は行う予定で、いずれも手術後の再発や転移の患者さんが対象となります。

RI内用療法の実施件数は増えていますが、施設が少ないため、患者さんは何か月も入院待ちを余儀なくされています。当院のRI病棟には9床の個室があり国内最多です。使用できる治療薬の量も最大ですので、これまで以上に優れた治療効果が望めます。

特別な注意点や前処置がありますので、入院治療も原則として外来診察後に行います。外来は予約制ですので、事前診察申込書を地域連携担当宛てにお送りください。また核医学科は、先端臨床研究センターにおけるPET検査も中心となって実施しています。

| 診療日と担当医師(核医学科) 024-547-1233 | |
|-----------------------------|-----------|
| 日時 | 担当医師 |
| 火曜日 13:00-15:00 | 菅原茂耕、萱野大樹 |
| 木曜日 // | 織内 昇、萱野大樹 |

第36号のなかみ

- 1ページ ○新任挨拶
- 2ページ ○みらい棟オープンについて
- 3ページ ○みらい棟オープンについて
- 4ページ ○リレー通信「けやきの会」
○子育て講演会&クリスマスコンサートが開催されました
○病床管理一元化をはじめます

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院
入院セットレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777



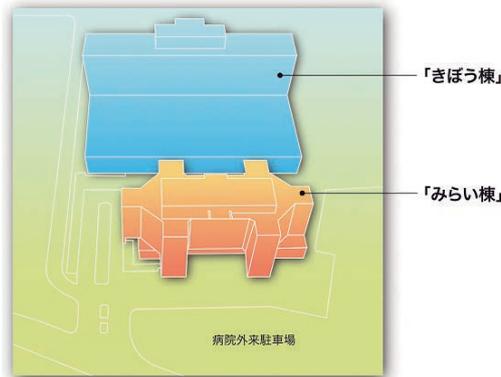
* 院内1階、入退院受付横 9番窓口
月～土曜日 9:00～17:00(日祝祭日休日)
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側にて営業します。



マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)
ローソン福島県立医科大学会津医療センター店



みらい

“みらい棟”で
3～5Fでは病棟

平成26年度から建設を進めてまいりました“みらい棟”（ふくしまいのちと未来のメディカルセンター棟1～5階）は、12月23日（金）に病棟が移転し、12月26日（月）には外来診療をスタートしました。

みらい棟には、本県初となるPICU（小児特定集中治療室）、放射性薬剤を内服して悪性腫瘍の治療を行うRI病棟、女性専用の病棟、長期治療が必要な子どもたちが学べる学習ルーム、災害時にはトリアージスペースとなる広いエントランスホールなどを備えました。

福島医大附属病院は、今後も皆様に**選ばれる**病院を目指して優れた医療を提供してまいります。

※今後、既存の病棟は“きぼう棟”と呼びます。

4F

血液疾患の治療や女性が安心して治療に専念できる環境を提供するとともに、RI病棟を整備します。



RI病棟



レディースフロア

RI（放射性同位元素）を含む薬剤を内服して悪性腫瘍の治療を行います。女性の患者さん専用の病棟です。セキュリティを確保して治療に専念できます。

2F

外来部門の一部がみらい棟へ移転します。小児科や産科・婦人科が移転するほか、生殖医療センターを新たに設置します。



小児外来診察室



中央待合

子ども目線で遊びごころのある診察室の扉

オープンカウンターで開かれた受付

4F

- 西病棟・RI病棟
- 東病棟（レディースフロア）

2F

- 小児科外来
- 小児腫瘍内科外来
- 小児外科外来
- 産科外来
- 婦人科外来
- 生殖医療センター（新設）
- 腫瘍内科外来
- 甲状腺・内分泌診療センター（新設）
- 県民健康管理センター
甲状腺検査部門（新設）
- 臨床研究センター
- 臨床腫瘍センター・
がん相談支援センター
- 外来化学療法センター

棟 フロア構成

はみなさまに分かりやすいよう、ごとにキーカラーを設定しています。



5F

診療科横断的にこどもの診療を行う病棟を新設します。県内初の PICU も設置します。



小児の重症患者に対応する設備を持った集中治療室
学齢期の子どもたちが自分の時間を持って、落ち着いた環境で学習できるスペースです。

3F

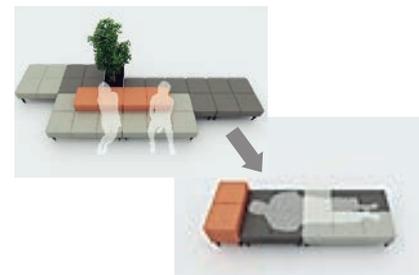
周産期の母体・胎児・新生児を守る医療を提供してまいります。



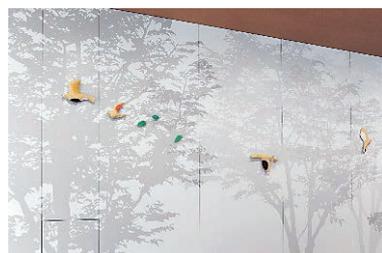
生まれたばかりの赤ちゃんのための集中治療室です。
ハイリスクな母体・胎児をケアするための体制・設備を備えた部屋です。

1F

高度救命救急センターとしての機能に加え、災害や高度被ばくに対応する医療機能を備えています。



災害時にはソファベンチがベッドに変形し、トリアージから治療までを行うスペースとなります。



また、エントランス奥にはみらい棟のデザインコンセプトである“キビタキの森”をイメージした大きな壁画があります。

従来の附属病院の建物は
“きぼう棟”という
名称になります。

リレー通信 病院ボランティア「けやきの会」

ボランティアの15年

山口 祐子

ある日の朝です。「山口さ〜ん」元気な総合案内からの診察券の確認の要請です。9月から受け付けの方法が変わり、窓口に並ぶことがなくなりました。無事に受付が終わり、患者さんに診察券を返し、ホットー安心。患者さんも「並ばなくて楽になったネ」と外来に向かいました。そんな朝の光景が、私の何ともいえない幸福感につながるのです。15年間の間には、いろいろな事がありました。私も時々患者になります。なかなか病気の方は医大と縁が切れませんが、ボランティアは身体の続く限り、続けたいと思っている今日このごろです。

それから休憩のお茶の時間は和気あいあいとして、お菓子を頂いた

り、とりとめのない笑い話で活力も湧きます。私はコーヒーが大好きなので、ボランティアの時は家で一杯、ボランティア室で一杯と……10人10色と言いますが、小さな世界ができています。積極的に話す人、それを静かにうなずいて聞いている人。私はどっちかな？

これからは、寒さとの闘いです。ジャンパーを着込んで、風の冷たさには勝てません。そんな時も患者さんは途切れることなくやってくるのです。少しでも良くなれば、その一念なのでしょう。そのどのくらいがお役に立つかわかりませんが、今日も私は「おはようございます」「お大事にどうぞ」と声をかけて、ボランティアの緑のエプロンに誇りを持って活動しています。

「子育て講演会&クリスマスコンサート」が開催されました エコチル調査 福島ユニットセンター

11月27日(日)に福島県立医科大学エコチル調査福島ユニットセンター主催による「子育て講演会&クリスマスコンサート」が大学講堂で開催され、200名を超える方々にご来場いただきました。

第一部は、福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター教授の横山浩之先生が「小学校に入るまでにできて欲しいこと」と題して、子どもが小学校に入るまでに身に付けるべき生活習慣等についてわかりやすく講演いただきました。続いて、橋本浩一福島ユニットセンター長がエコチル調査の概要とこれまでの調査でわかったこととして喘息や花粉症等の発症状況、虫除けスプレーなど身の回りの化学物質の使用状況を報告しました。

第二部は、福島県立医科大学の混声合唱団「燦(さん)」による合唱で幕を開けました。団員の皆さんは楽しいコスチュームで登場し、素晴らしい歌声を奏でいただきました。続いて“歌のお姉さんとピエロ”によ

る少し早めのクリスマスコンサートを楽しみました。

エコチル調査は、身の回りにある化学物質などの環境要因が子どもの健康や成長に及ぼす影響を調べる全国調査です。福島県では13,134名の妊婦さんに調査に参加していただき、参加者のお子さんが13歳になるまで続く調査が進行中です。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



病床管理一元化を始めます

当院は、県内唯一の特定機能病院として、高度医療や専門的治療を必要とする患者様を中心に入院治療を受け入れ、病状が安定した後はすみやかに退院していただくことで、地域のニーズに応じるという役割を果たしています。そのため、入院が必要な患者様をより多く受け入れることができるよう、退院支援を積極的に進め、上手なベッド運用を行う必要があります。

地域連携部では、今年4月から病床管理担当者を新たに設置し、全診療科の病床運営を一元的に管理する準備を進めています。これまで、主に各診療科や病棟が行っていたベッド運用を、病床管理担当者が一元して管理するベッド運用へと変わることになります。空床がある場合には、入院患者様の治療や看護の専門性を考慮し、全病棟で全診療科の患者様を受け入れていきます。

地域連携部

現在は、整形外科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、神経内科、脳神経外科で試行しており、各フロアの看護師長と病床の最新の情報を共有するためミーティングを行ったり、空床や入院予約状況を確認するため、病棟のラウンドを行ったりしています。

平成29年1月からは、全診療科で病床管理の一元化を開始する予定です。地域連携部では、診療科を超えた空床の活用や多職種と連携をとれるよう、迅速なベッド運用を行い、入院受け入れのベッドを確保し、患者様の治療が遅延なく行われるように取り組んでまいります。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

